東京2020大会の安全・安心の確保のための対処要領について

別紙

1　総則

目的

① 世界から訪れるアスリートや大会関係者、観客、都民の安全・安心を確保

② 大会期間中における都民生活と社会機能の維持

③ 大会運営を脅かす事案への対処

治安対策、サイバーセキュリティ、災害対策、感染症対策

４つの視点から各種事態を想定した対処要領を策定

- 都市オペレーションセンター（仮称）を中心に各局・関係機関と連携し、危機的事態に対応

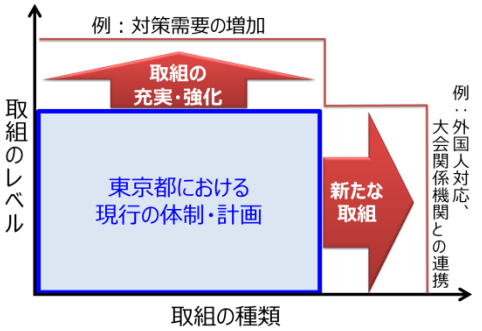
対処要領の考え方

- 多くの観客が競技会場に集中するための取組の充実・強化を図るとともに、外国人対応など新たな取組を展開
- 現行の体制・計画を最大限に活用

対処要領の検証

- 本対処要領は、今後、訓練等を通じ新たなリスクにも対応できるよう、東京2020大会まで継続的に検証・見直しを行っていく。

＜対処要領の考え方＞



2　治安対策

考え方

犯罪・トラブル等の未然防止及び発生時の警察・消防等治安維持機関への迅速かつ適切な支援を定める。

主なリスク

- 競技会場など大会関連施設・大規模集客施設等に対するテロ（予告を含む）の発生
- 来日外国人・訪都旅行者の増加による犯罪・各種トラブルの増加

主な対応

- 官民一体となった防犯・安全見守り活動により防犯意識を醸成し、犯罪やテロ等を未然に防止する活動の推進
- テロ等が発生した場合の観客等の避難先の確保など、警察、消防等の治安維持機関との連携と支援活動の実施

3　サイバーセキュリティ

考え方

東京都サイバーセキュリティポリシーに基づいたインシデント発生時の対応プロセスに加えて、大会期間中に求められる事項、特に庁内連携組織及び外部関連団体との連携について定める。

主なリスク

- 大会運営や都市運営に被害・影響を及ぼすことを目的としたDDoS攻撃(注)や標的型メール攻撃などのサイバー攻撃の増加
- 重要インフラの基盤システムに対するサイバー攻撃

(注) 複数の攻撃元から大量のデータ送信により、サーバに膨大な処理負荷を発生させ、サービス停止に追い込む攻撃。

主な対応

- 大会運営に与える影響に応じたインシデント対応
- サイバー攻撃を検知した際の、国や組織委員会等関係機関との迅速な情報共有を実施

4　災害対策

考え方

大会開催時に首都直下地震等が発生した際、関係機関と連携して迅速・適切に対策活動が展開できるよう、対応方針、役割分担、時系列による活動（主体・内容・手順）を定める。

主なリスク

国内外からの訪都者の増加によって、負傷者や滞在先等に戻れない者が増加するリスク、安全な避難先等が分からず混乱が生じるリスク、発災当初の人や車両の滞留により緊急輸送が困難になるリスク等

主な対応

- 競技会場周辺エリア等において、滞在先に戻れず滞留した観客等に向け、災害時給水ステーションにおける応急給水を実施
- 組織委員会等と連携し、外国人を含む観客等に対する多言語対応に配慮した避難誘導を実施

5　感染症対策

考え方

都民等の健康に重大な影響を及ぼし、大会運営に支障が生じる事態を回避し、万が一、このような事態に至った場合にも、速やかに被害拡大防止のための対策等を講じられるよう、危機管理体制や大会に向けた取組について定める。

主なリスク

国内外からの人や物資の往来が増え、競技会場周辺や繁華街等を中心に通常時よりも多くの人が集まることによる、様々な感染症が発生・拡大するリスク

主な対応

- 海外で脅威となっている感染症について、診断や保健所への届出等に必要な情報を整理し、医療機関に周知徹底
- 疫学調査を適切に行えるよう支援するツールを活用した速やかな原因究明と感染拡大防止